

組織目標評価報告書 (2019年度)

部局名: **グローバル人材育成院**

部局長名: **木村 邦生**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>⑤センター・機構等業務</p>	<p>管理運営領域の目標の達成状況</p>
<p>※センター・機構等の業務に関する目標についてご記入ください。</p> <p>(1) 短期留学プログラム及び短期プログラムによる派遣数、並びに部局プログラムによる派遣数の両方を促進するための支援を充実させる。</p> <p>(2) 全学を対象とした海外留学に関する危機管理セミナー及び新入生対象の全学ガイダンスを継続して実施する。</p> <p>(3) 外国人留学生及び日本人の宿舎での混住により、多文化理解及び活発な交流に関する取組を実施する。</p> <p>(4) ASEAN大学ネットワーク(AUN)、国立六大学国際連携機構及び中国卓越大学院連盟(Excellence9)の協働により、交換留学プログラムを計画・実施する。</p> <p>(5) キャンパス・アジア事業を推進する。</p> <p>(6) O-NECUSプログラム(岡山大学・中国東北部大学院留学交流プログラム)を推進する。</p> <p>(7) 「日本留学海外拠点連携推進事業」の事業対象国がミャンマーのみからASEAN地域に拡大したことに伴い、日本留学者の増加を図るための活動を進める。ミャンマーにおいては、岡山大学日本留学情報センター(OJEIC)と連携して日本留学フェア及びアカデミックセミナーを実施、ASEAN地域ではアカデミックセミナーを実施する。</p> <p>(8) 学生のニーズ把握のための情報収集を行い、継続してニーズに合った協定校開拓、効果の高いプログラム開発及び現行プログラムの改定を行う。</p> <p>(9) グローバル人材育成特別コースの英語カレベルに応じたグループ分けによる新カリキュラムについて、導入した平成29年度以降と導入前のコース生の語学力の教育効果及び海外派遣との相関について検証する。</p> <p>(10) 平成31年度から開始する「学部・学科型プログラム」について、部局と連携しながら、適切に履修できるよう環境を整備する。</p> <p>(11) 学部・研究科において実施するプログラムについて、部局と連携し、企画及び実施協力を行う。</p> <p>(12) 岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラムの充実を図り、円滑に実施する。</p> <p>(13) 新たに米国務省の重要言語奨学金プログラム(CLSプログラム)の学生派遣校として採択されたことを受け、CLSプログラムを着実に実施する。</p> <p>(14) プレマスターコース(大学院予備教育特別コース)の充実を図り、円滑に実施する。</p> <p>(15) 国際同窓会支部及び海外事務所との連携強化を図る。</p> <p>(16) 国立六大学国際連携機構によるアライアンスを推進する。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号</p> <p>6</p> <p>18</p> <p>20</p> <p>51</p> <p>51</p> <p>51</p> <p>51</p> <p>52</p> <p>52</p> <p>52</p> <p>52</p> <p>52</p> <p>52</p> <p>52</p> <p>53</p> <p>54</p> <p>73</p> <p>(1) 学生派遣数の増加を目的に、①国際コーディネーターの設置による部局の新規プログラム及び既存プログラムの実施に向けた支援、②EPOKや短期の語学研修等の他、ニーズの高いインターンシッププログラムや協定校が実施するサマー・スプリングプログラムの実施による留学の多様化と単位化、③留学相談室による定期相談(通年、毎週)や学内向けの留学フェア(2回)の実施、④トビタテ留学JAPAN奨学金の獲得を増進するための書き方講習会や模擬面接の実施、⑤プログラム開発経費による経済的支援を行った。*</p> <p>(2) 危機管理能力の向上に向けて、新入生対象の必修科目全学ガイダンス(4月)、危機管理に関するガイダンス(不定期)、海外渡航者対象の危機管理セミナー(7月・1月)等を実施した。また、2017年から運用している「派遣留学支援・海外渡航システム」を活用し、緊急時における部局間の連絡・連携を迅速に行なっている他、危機管理に関する地区セミナー(12月)の実施や緊急事態に備えた事前対策と実際の対応を支援する危機管理サービスへの加入等により、全学的な危機管理の体制の強化を図った。*</p> <p>(3) 留学生又は日本人学生が企画した交流イベントに対し、会場の貸出やイベント開催の掲示及び他の留学生への窓口での呼び掛け等により、その実施を支援した。1月24日時点で実施した交流イベントは19件で、参加者延べ数は451人であった。*</p> <p>(4) 国立六大学と連携しながら中国卓越大学連盟の大連理工大学開学70周年記念事業となる学生友好交流プログラム(4/29-5/6)に16名の学部・大学院生を派遣した他、ASEAN大学連合(AUN)と合同でサマープログラムをタイで実施し、国立六大学からの学生8名を含む計17名の学生を派遣した。</p> <p>(5) キャンパスアジア事業では、ダブル・ディグリー制度による学生交流の推進のため、継続して提携校への広報及び募集を行った。*</p> <p>(6) O-NECUSプログラムにおいては、ヘルスシステム統合科学研究科を新たに加えるため、附属文書を締結し、関連規程を整えた。また、O-NECUS参加部局へ活動経費を配分する等の経費支援を行った。*</p> <p>(7) 「日本留学海外拠点連携推進事業(東南アジア(ASEAN))」において、ミャンマー拠点では、留学フェア2件、ミニ留学フェア36件、アカデミックセミナー・日本セミナー8件、就職・経済経営セミナー1件を実施した。その他ASEAN諸国(タイ、カンボジア、ラオス、ベトナム、マレーシア、インドネシア)では、アカデミックセミナー等19件の実施・参加を通じ、留学促進の活動を行った。また、優先国であるカンボジア、ラオスをはじめASEAN全域における各種セミナーの実施をサポートするため、1月30日にバンコク・サテライト拠点を開所した。*</p> <p>(8) 短期プログラム説明会等で実施するアンケートにより、継続的に学生のニーズ把握に努め、より費用対効果の高いプログラム開発に向け、EPOK協定校アテネオ・デ・マニラ大学での語学研修の実施を検討している。また、留学成果分析ツールの導入に向け情報収集を行っている。岡山大学短期留学プログラム(EPOK)に関しては、協定締結が困難になりつつある北米の状況を踏まえ、協定校先選定において、欧州で質の高い英語の授業を提供する大学をターゲットとして、NAFSA等の海外留学フェアで戦略的な開拓を進めた。その結果、2大学(オランダ、ベルギー)と新規に協定を締結した。現在も、その他複数校と協定締結に向けた協議を進めている。*</p> <p>(9) 入学年度別に語学力の教育効果をはかるため、7月、11月、1月のTOEIC L&Rの受検をコース生に実施、収集したデータに基づき、英語カレベルに応じたグループ制を導入した平成29年度入学のコース生と導入以前のコース生における、語学力の教育効果及び海外派遣との相関について検証した。*</p> <p>(10) 「学部・学科型プログラム」については、対象学生が意識的に履修に取り組めるよう、部局と連携した広報展開に向けた準備を進めている。*</p> <p>(11) 国連貿易会議(UNCTAD)と、「持続可能な開発目標(SDGs)達成のための科学技術とイノベーション(革新)に貢献する人材育成を目的とした包括連携協定を世界に先立ち締結(令和2年1月)し、2020年度以降、加盟国の研究者を受け入れる基盤を整備した。*</p> <p>(12) ライデン大学日本語日本文化研修プログラムを実施し、24名の受入れを行った。*</p> <p>(13) アメリカ国務省が実施するクリティカル・ランゲージ・スカラシップ(CLS)プログラムのパートナー校に採択され、全米から選出された優秀な学生を26名を受け入れて日本語・日本文化研修プログラムを実施した。結果、アメリカン・カウンシルから最終評価として5段階で「3.92」という高評価を得た。*</p> <p>(14) 大学院予備教育特別コース(プレマスター)への入学について、協定校、国際同窓会、海外事務所等と連携し、志願者の募集を行った結果、令和元年度における本コース入学者は29名となり、昨年度に比べ約2割増加した。また、プレマスター制度の学内での認知度を高めるため、学務委員会及び運営委員会等において制度の周知を行い、大学院入学を目指す研究生の受け皿としてプレマスターコースの積極的な活用を推進した。さらに、令和2年度入学者選抜から、より優秀な学生の獲得を目指し、十分な面接時間を確保し厳格な選考を行うため、研究能力と日本語能力の審査を別々に実施することとした。*</p> <p>(15) 岡山大学ホームカミングデイ2019に際し、国際同窓会より14支部(11支部出席)を招へいするとともに、国際同窓会の新役員及び監事に就任予定の海外支部長及び会員を招へいた。支部代表者から支部活動について報告してもらったとともに本学の現状説明や本学関係者との意見交換を行うことで相互の情報共有ができ、信頼関係の維持およびネットワークの強化につながった。海外事務所については、2020年1月にはタイに日本留学海外拠点連携推進事業ASEAN拠点バンコク事務所を開所し、現地に駐在するコーディネーターを採用した。*</p> <p>(16) 令和元年度のミャンマーでの日本留学フェアにおいては、ぶらっとフォーラムが共催したジョブフェアと同時間開催した。同フェアにはミャンマー教育大臣、在ヤンゴンの学長、副学長が出席するなど関心が高まっており、入場者合計では約3,500人となり、相乗効果が得られた。*</p> <p>※達成状況に係る指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生数、日本人留学生数 外国人留学生受入:(暫定数値)/1,542人(H31年度)/1,500人(R1年度目標) 学生派遣:(暫定数値)/767人(H31年度)/760人(R1年度目標) 交流協定締結大学数:大学間:179件/163件(H31年度)、部局間:197件/164件(H31年度) <p>【新たに生じた課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学各部局の教職員全体のグローバル化の実現に向け、各部局に国際コーディネーターを配置した他、部局事務において国際業務を担当する職員の配置を進めている。